

こんにちは婦人会「さくら」です

梅雨明けと同時に暑い夏が来ました。夏の風物詩、「朝顔市やほうずき市」など下町情緒溢れるお祭りの様子がテレビで報じられていました。お祭り大好きな編集人は、どちらも一度訪れてみたいと思いながら未だ叶わずにおります。来年こそ！（鬼に笑われる？かな）先日、22日は「土曜の丑の日」でした。例年より早く到来した猛暑を乗り切るために、安くて小さいウナギを買いました。まだまだ暑さは続きます。お体に気を付けてくださいね。

～婦人会・暮らしのエッセンス～

朝顔市で調べておりましたら、こんな情報が…

朝顔はヒルガオ科の一年草で、ツルは左巻き。原産

地は熱帯アジアか、西南中国からヒマラヤにかけての暖かい山麓地帯ではないかと言われています。今から千百年以上も前の奈良時代に中国から遣唐使によって伝来したようで、当時は朝顔の種が大変貴重な漢方薬として珍重され下剤用として使われていたようです。朝顔が今のよう
に観賞用として栽培されたのは江戸時代に入ってからだそうです。また、朝顔の種のことを中国名で牽牛子「ケンゴシ・ケニゴシ」と言い、和名を阿佐加保と書き、朝に咲く花である事から朝顔と言われるようになった。またケンゴシの花と言うことで、別名^{けんぎゅうか}牽牛花とも言われる。牽牛花と言いますのは七夕の牽牛・淑女の牽牛の花と書くので、朝顔市は七夕



の前後の三日間開催されるようになりました。古代中国では大変高価な薬だったそうですよ。

インターネット引用

桜台婦人会「さくら」
平成25年7月25日
第138号